

Resonance

2014.5.22thu-5.27tue
11:00-19:00 (Last day - 16:00)

PHOTO ※画像イラスト等の保存・無断使用・転載・二次利用は禁止します※



陶

鍛治 ゆう子
KAJI Yuko

漆

武石 和春
TAKEISHI Kazuharu



硝子

友定 聖雄
TOMOSADA Masao

金属

山下 伸一
YAMASHITA Shinichi

今回の展覧会は鍛冶ゆう子(陶)・武石和春(漆)・友定聖雄(ガラス)・山下伸一(金属)による4人の工芸展でした。昨年に引き続き2回目となるこの展覧会は、それぞれ個性豊かなアートピースから、日様使いが出来るような小物まで様々な物が展示されていました。今回出品されている中でそれぞれの一番大きな作品を見ていきたいと思えます。鍛冶ゆう子先生の『土の舟』と題された作品は3つのパーツから出来ている作品でした。パーツを横長に配置することにより舟の形のように見えます。作品の表面は近くで見ると様々な厚さの層が重なりあい、地層の様な表情をしています。遠くから眺めるとその表情は平面的になり木でつくられた物にも見える事ができました。武石和春先生の『街の詩』という作品は抽象的な漆画の大作でした。黒ベースのバックの中に赤を中心に幾何学的な模様が描かれています。近くで見ると何層にも重ねられた漆の流動的な色合いを見る事ができ、グラデーションもとてもキレイにつくられていました。大きな中にも繊細な部分があり迫力以上に重厚感を感じられる作品でした。友定聖雄先生の作品は全て同じような大きさや『Massage in the box』というタイトルが付けられていました。ガラスの板を何枚も重ねる事により、光の屈折率や重なりあい方や形で表情を出しています。その一つ一つはまるで何かのシンボルの様に作品の中に意味を内包しているようでした。山下伸一先生の作品も同一のサイズをしていました。先生の作品は有機的な曲線を何本も重ね、作品が出来ています。とても生命力溢れる植物の様な印象を受けます。しかしこの作品は1本のラインを決める事により全体のバランスが整えられるそうです。それなので数学的でもある作品だなと感じることができました。ディスプレイは空間をパーティションで区切る事無く、それぞれレイアウトされていたので、大きな作品も空間に美しく収まり、それぞれがそれぞれを引き立てていました。まさにResonance(共鳴)というタイトルに相応しい展覧会となりました。

